

# 岩手県 | 援隊だより

岩手県（釜石）派遣隊より

（「 | 援隊しずおか」より）

県民みんなで 力を合わせ 希望に向かって 一歩ずつ

がんばろう！ 岩手

Vol. 50（平成 28 年 7 月 13 日）

## ■ 大槌町のシンボル「イトヨ」の引越し

東日本大震災津波の被災地では、迅速な復旧復興事業を進めると同時に、その地に住む動植物に配慮しながら工事を進める必要があります。ここでは、その取組の一環として行った作業を報告します。

岩手県沿岸のほぼ中央部に位置する大槌町は、東日本大震災津波により、まちの中心部である町方地区が壊滅状態となりました。現在、区画整理事業や防災集団移転事業及び県（静岡県の派遣職員が担当）事業である大槌川・小槌川水門防潮堤工事を進めています。この場所に生息する大槌町指定天然記念物「イトヨ」への影響が懸念されています。

今回、イトヨが生息しているため池が区画整理事業の盛土工事の影響を受けることから、長年、大槌町のイトヨを研究されている岐阜経済大学の森誠一教授の助言指導のもと、6月25日にイトヨの引越し作業が行われ、大槌川・小槌川水門防潮堤工事を担当する齊藤主査も作業に加わりました。今後もイトヨの生活を見守りながら環境に配慮した復興まちづくりを進めていきます。



上) 岩手県大槌町の上空写真



上) イトヨの引越し作業を行う齊藤主査



上) 引越しのため、捕獲したイトヨ

### 『大槌町のイトヨ』

「淡水型・遡河回遊型イトヨ」いわてレッドデータブックAランク 「絶滅の危機に瀕している種」

大槌町には、淡水型イトヨのほか、海から川を上る遡河型イトヨも同所に生息する希少な地域ですが、津波の影響により淡水型と遡河型の交雑種が新たに確認され、日本で類がなく、世界的にも珍しい事例とされています。

## ■ 次々と掘り出される「工事現場の鉄塊」

各水門及び防潮堤工事の現場では掘削等作業を進めていくと鉄塊が掘り出されます。年度当初には甲子川水門工事現場内で不発弾が、最近では鵜住居川水門工事現場内から自動車が掘り出され、警察官の立会の許に確認を行いました。甲子川水門工事の現場から不発弾が発見されたのは今回で 3 回目です。見つかった不発弾については自衛隊の確認により危険性がないと判断され回収を行いました。

鵜住居川水門工事の現場で発見された自動車は現場検証の結果、所有者により廃車手続きがされた自動車であることが判明したため、現在処分の手続きを進めています。

甲子川水門  
工事現場



右) 警察現地立会の様子



左) 鉄くずの分別処理中に  
発見された不発弾  
H28. 4. 8

鵜住居川水門  
工事現場



下) 警察現地立会の様子



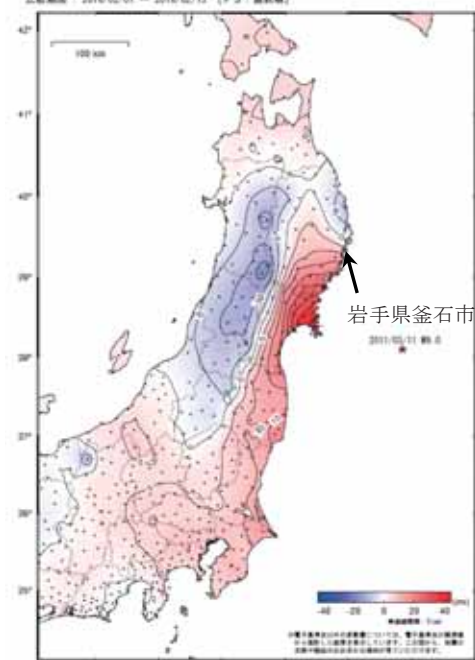
上) 仮締切内掘削中に  
発見された自動車  
H28. 6. 29

## ■ 沿岸被災地で起きる「地盤隆起」とは

東日本大震災の影響により、岩手、福島、宮城 3 県の沿岸部では、地震直後に地盤沈下（最大で 1 m 超）が起きたことはご存知でしょうか？その沿岸被災地で今話題となっているのは、地震後沈下した地盤が一転、今度は隆起が進んでいることです。岩手県釜石市では地震により一旦 54cm 沈下しましたが、その後、現在までに 14cm の隆起が観測されました。これに伴い岩手県では、沿岸被災地で整備が進む防潮堤等の高さについて、工事の進捗状況、周辺事業との調整可否、工程延長による影響及びコストの増減等の要素を踏まえて、防潮堤高の見直しの要否について総合的な検討を行う予定です。



東北地方太平洋沖地震（M9.0）後の地盤変動（上下）  
基準期間：2011/03/12 - 2011/03/12（F3 - 震前観）  
比較期間：2016/02/01 - 2016/02/13（F3 - 震後観）  
単位：mm



引用元 国土地理院 東北地方太平洋沖地震から 5 年

## ■ 大槌町のメインストリート 「一般県道大槌小釜線」 開通

東日本大震災津波により甚大な被害を受けた、一般県道大槌小釜線（岩手県大槌町）ですが、大槌町の進める復興事業により震災前の姿を取り戻すことができ、7月2日に開通式が行われました。

開通式の締めくくりには、特別ゲストとしてAKB48のメンバーが登場し、「会いたかった」や「ポニーテールとシュシュ」などの人気曲で復興が進む大槌町を盛り上げてくれました！



特別ゲスト「AKB48メンバー」6名  
左より 横山結衣(チーム8)、川本紗矢(チーム4)、  
大和田南那(チームA)、谷口めぐ(チームA)、  
佐藤七海(チーム8)、谷川聖(チーム8)



## ■ 「いわて銀河100kmチャレンジマラソン」に挑戦！



上) 疾走する齊藤主査

6月12日、第12回「いわて銀河100kmチャレンジマラソン」が開催され、沿岸広域振興局土木部陸上部は、駅伝の部に2年連続出場を果たし、静岡からの応援職員である齊藤主査がその一端を担いました。

この日は、盛岡市で最高気温が29.8℃まで上がり、駅伝には過酷な条件でしたが、参加者全員の頑張りでもって無事完走することが出来ました。

## ■ 自然を満喫「五葉山トレッキング♪」

6月4日、沿岸広域振興局登山部が本年度第1回の活動として「五葉山トレッキング」を行いました。

五葉山は、三陸海岸の最高峰ですが、標高1,351mと初心者の登山者には最適な環境で、登山初挑戦の派遣職員（東京都、福岡県及び静岡県）を含む全員が無事に山頂にたどり着きました。

登山初心者のメンバーは、不慣れな登山のため翌日以降心地よい筋肉痛が続きましたが、良い思い出となりました。

次回以降は、レベルアップして早池峰山、岩手山あたりに挑戦しようとのプランが練られておりますので、静岡県からの参加希望がありましたらご一報を!?



上) 前列右端齊藤主査、中列左から2人目岩井主査、後列左端植田主査

平成28年度 岩手県派遣メンバー

岩手県 沿岸広域振興局 土木部

復興まちづくり課 復興第三チーム：鈴木健支、鈴木広和、植田勝久、

齊藤達矢、岩井博靖、金子裕紀（本号編集者 金子）